

賛否の公表

※採決で賛否が分かれた案件の採決結果です。これ以外の案件は全会一致で可決等されています。

● 採決結果一覧表 ●

(賛成=○、反対=×)

議席	氏名	会派	陳情 第34号	請願 第39号	請願 第40号
1	菅原 由和	爽志会	×	○	○
2	飯坂 一也	公明党	×	×	×
3	三ノ宮 治	爽志会	×	○	○
4	高橋 政一	市民クラブ	○	○	○
5	佐藤 郁夫	市民クラブ	×	○	○
6	菊地 孝男	創政会	×	○	×
7	千葉 正文	市民クラブ	×	○	×
9	関 笙子	創政会	×	○	×
10	加藤 清	爽志会	×	○	○
11	阿部加代子	公明党	×	×	×
12	中西 秀俊	創政会	×	○	×
13	小野寺隆夫	爽志会	×	○	○
14	菅原 明	日本共産党	○	○	○
15	三宅 正克	爽志会	×	○	×
16	菊池堅太郎	創政会	×	○	×
17	小野寺 重	創政会	×	○	×
18	千葉 悟郎	市民クラブ	×	○	○
19	藤田 慶則	創政会	×	○	×
20	今野 裕文	日本共産党	○	○	○
21	佐藤 邦夫	市民クラブ	×	○	×
22	及川 梅男	爽志会	×	○	○
23	内田 和良	無会派	×	○	○
24	千田美津子	日本共産党	○	○	○
26	遠藤 敏	創政会	○	○	○
27	佐藤 修孝	政凛会	×	○	×
28	菊池 嘉穂	政凛会	×	○	○
29	新田 久治	政凛会	×	○	×
30	小野 幸宣	創政会	×	○	×
31	佐藤 克夫	創政会	×	○	○
32	高橋 瑞男	政凛会	×	○	○
33	及川 善男	日本共産党	○	○	○
34	中澤 俊明	無会派	×	○	○
賛成：反対			6:26	30:2	18:14

※議長は採決には加わりません

(注)請願第40号は原案についての表決

○陳情第34号 各区地域包括支援センターの人員配置を充実させ、業務の市役所本庁への集約の中止を求める陳情【教育厚生常任委員会の審査結果「不採択」に対する討論】

反対討論 介護保険関係法律は、65歳以上の高齢者3千人から6千人毎に保健師、社会福祉士及び主任介護支援専門員を最低限それぞれ1人配置することとされている。人員の配置を充実させ困難事例に対応するため市全体の事業計画を取り仕切る部署を設置し対応するのが法の趣旨に求められる

賛成討論

地域包括支援センターの人材は4月より、3か月ほど経過しているが困難事例に対しても本庁と支所がよく連携されており、大変丁寧に対応している。さまざまな情報の共有を図りながら運営されており、現状の有資格の人材をフル活用し連携強化が図られていることから原案に反対する。

○請願第39号 安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める請願

反対討論 奥州市においては規定の労働時間は守られており、夜勤の勤務時間の間隔は12時間以上確保されている。疲労回復に十分な時間間隔を開けることは、個人差もあり客観的である。医師、看護師、介護職員の大増員は理想であるが大変困難である。請願の趣旨は理解できるが妥当性、実現性を欠くと判断し、委員長報告に反対する。

賛成討論

昨年、岩手県内にあるNPO法人岩手地域総合研究所が実施した震災後の仕事と暮らしに関する調査が行われ、医療職の方々の声として、65・5%が大変な心労の疲労を第一に掲げられている。特に職員増や改善策を望む声が圧倒的に多かった。被災地である岩手県内全体を考えると、夜勤や交代制労働者の増員と労働環境の改善のため、法整備が必要だとするこの請願は被災地として震災からの復興、地域医療の再生の願いはまさに当然のことである。

○請願第40号 公的年金2.5%削減中止の意見書提出を求める請願【建設環境常任委員会の審査結果「不採択」に対する討論】

反対討論 物価が上がっても生活必需品は上がっている中、高齢者生活は税金や保険料などが年々上昇し年金の手取り額が少なくなるのが実情である。政府は2.5%削減したあと、毎年0.9%程度の年金引下げを続ける方向で検討している。当市議会では昨年6月に同様の請願を採択し、意見書も提出していることから原案に賛成し委員長報告に反対する。

賛成討論

年金財政が厳しいことは全国民が認識しており、年金がこのまま継続するということは非常に難しい状態である。若い人たちは国民年金等を納めていない方も随分多い状態である。将来的に年金が行き詰まるというところは分かっていて、年金は物価スライドが原則でルール上であれば、きちんとやるべきという観点から、原案に反対し委員長報告に賛成する。